

Vol.83／夏季号

令和7年(2025年)7月1日発行
(年3回7・11・2月発行)

 第64回従業員功労表彰受賞者一覧

 令和6年職場における熱中症による
死傷災害の発生状況

 ISO TC23/SC19 Plenary 報告

ひま

日農工会報

わり



CONTENTS

第 64 回従業員功労表彰受賞者一覧

[製造部門]	8 名		1
[研究・開発部門]	7 名		3
[管理・営業部門]	14 名		5

健康相談		10
------	-------	----

令和 6 年 職場における熱中症による死傷災害の発生状況		11
------------------------------	-------	----

職場における熱中症対策の強化について		14
--------------------	-------	----

ISO TC23 / SC19 Plenary 報告

日本農業機械工業会 事務局長 松山 徹		16
---------------------	-------	----

農作業安全ポスターデザイン募集！ - 日本農業機械化協会 -		19
--------------------------------	-------	----

中小企業等経営強化法に関する証明書発行ガイドライン		20
---------------------------	-------	----

日農工だより		23
--------	-------	----

表紙写真：『紫陽花とアヒル』

群馬県 森田 清 さん

茨城県桜川市にある雨引観音（雨引山楽法寺）の水中花
紫陽花の上に乗るアヒルを撮影

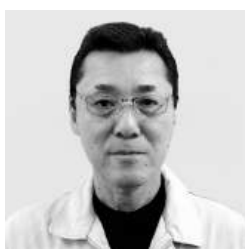
令和7年度

第64回従業員功労表彰受賞者

“合理化の促進、技術の改良開発、販売の促進等
企業発展に著しく寄与した方に贈られる”

注：所属・役職名は、選考日(令和7年3月12日)時点
勤続年数は、令和7年5月1日時点

【製造部門】



仲村 弘行

金子農機株
生産部製造課
第2グループ 係長
(勤続年数 37.1 年)

【功績の概要】

入社以来 36 年に渡り、生産現場の塗装工程において現場の改善・創意工夫を重ね、貢献してきた。

また近年では、現場作業員の指導・育成に力を注ぎつつ自らも作業員として高い成果をだすよう努力をし、現場作業員の模範となって刺激を与えている。



岡本 清志

三陽機器株
精造部
グループリーダ
(勤続年数 34.1 年)

【功績の概要】

入社後、開発で9年間ローダの設計開発を担当し、その後製造で25年間溶接製品や多数の部品の手配担当として従事。幅広く知識を活用して業務に取り組んできた。現在はグループリーダとして、積極的に後輩社員への生産管理や品質管理の基本指導を行っている。



吉岡 聖訓

(株)ササキコーポレーション
生産本部生産部
加工チーム
(勤続年数 32.1 年)

【功績の概要】

入社以来、一貫して板金加工に携わり、培ってきた技能と加工設備を駆使し、品質向上とコスト削減に尽力してきた。周囲からの信頼も厚く、チームの要として、改善活動や生産計画遵守のためにチームを牽引するとともに、後輩の指導育成にも努め、社業発展に大きく貢献している。



寺村 正明

(株)太 陽
生産技術部
生産技術課 係長
(勤続年数 33.1 年)

【功績の概要】

入社以来、金型の製作業務に従事し、金型製造技術の発展に大きく貢献してきた。2010 年以降は当該部門の監督者として、これまで培った経験と技量を活かして業務管理及び人材育成に注力している。柔軟かつ的確な仕事ぶりから自部門のみならず関連部門からの信頼も厚い。



吉本 和英

(株)太 陽
品質保証部
品質管理課 課長
(勤続年数 34.1 年)

【功績の概要】

入社以来、製造現場・開発・生産技術・インド工場・品質管理で経験を培った、ものづくりのプロフェッショナルであり、その経験と知識で品質管理に貢献している。業務や人からの信頼性が高い。



横山 秀次

(株)タカキタ
製造本部本社工場
溶接・塗装課 課長
(勤続年数 32.1 年)

【功績の概要】

入社以来製造本部本社工場に勤務し、2017 年に組立課専任課長、2020 年に組織変更によって溶接・塗装課専任課長となり、2021 年に溶接・塗装課課長に就任し現在に至る。

農業機械の製造など一貫して当社のものづくりにたずさわり、社業の発展と部下の指導育成に貢献した。



原野 和行

本田技研工業(株)
品質管理部製品技術課
エキスパートエンジニア
(勤続年数 42.1 年)

【功績の概要】

12 年にわたり農業機械製品を含むパワープロダクツ製品の新機種導入や量産/市場品質領域の業務を歴任し、担当組織を統率すると共に関連部門に強力に働きかけ、世界中のお客様に「役立つ喜び」を提供することに尽力した。現在はこれまでの技術的・管理的知見を基に、後進の指導に注力しており、その姿は賞賛に値する。



後藤 征紀

(株)山本製作所
製造部
塗装グループ
(勤続年数 39.1 年)

【功績の概要】

入社以来、製造部塗装グループに所属し、溶剤や粉体の塗装を行っており、社内の模範となるような専門性の高い技術を習得した。近年は、これまでの経験と知識を生かし、溶剤塗装の後輩育成に尽力している。

いつも温厚で誰からも親しまれ、グループ内だけでなく他グループからの信頼も厚く、社員の模範となっている。



増田会長 会長式辞



金子農機(株) 仲村弘行さん



(株)ササキコーポレーション 吉岡聖訓さん



(株)タカキタ 横山秀次さん

[研究・開発部門]



八 塚 英 樹

(株)アテックス
研究開発部
(勤続年数 38.1 年)

【功績の概要】

入社以来コンバインカッタの開発に注力し、数多くの特許取得など、常に新機構の折り込みやコストダウンの実施を行なって商品価値の向上に尽力した。

また、OEM 開発グループのリーダーとして開発をけん引し、社業の発展に多大な貢献をした。



飯 田 勝

(株)神崎高級工機製作所
経営統括部
部長
(勤続年数 36.1 年)

【功績の概要】

入社以来 35 年に渡り、農業機械や乗用芝刈機、ユーティリティービークル向けなど様々な駆動系の設計開発に従事し、特に油圧とメカを一体化した無段変速トランスアクスルはロングセラー商品となり、広く市場に普及している。



大 町 浩 司

有光工業(株)
技術開発部
標準機開発課 係長
(勤続年数 20.1 年)

【功績の概要】

入社以来、20 年にわたり技術部門の業務に従事し、農業機械部門の製品開発に大きな成果を修め、会社の発展に貢献をした。特に施設市場向けの静電ノズルや自動走行式防除機(オートランナー)の開発改良に携わり農薬の少量散布や作業の省力化に寄与した。



中 谷 友 美

本田技研工業(株)
二輪・パワープロダクツ
開発生産統括部
完成車開発部完成車研究課
(勤続年数 40.1 年)

【功績の概要】

入社以来、芝刈り機や刈払い機の研究開発に従事。そのスキルを活かし、駐在員として欧州拠点の現地開発や事業/営業部門で商品企画に携わる等、幅広く活躍。近年は開発部門や営業部門の若手人材育成に積極的に取り組み、社業の発展に寄与している。



黒田 将 仁

松 山(株)

開発部

課長

(勤続年数 27.1 年)

【功績の概要】

1998 年に入社し、主として開発部門でロータリーおよびハローの設計業務に従事した。特に、当社を代表するいくつものロータリーの開発に携わり、多くの新技術を生み出した。現在は、開発部の課長として、ロータリー・ハローチームの責任者を務めるとともに、次世代を担う若手メンバーの育成にも力を入れ、メンバーから厚い信頼を得ている。

生産性向上とプラント事業の発展に大きく貢献している。



(株)アテックス 八塚英樹さん



大 倉 嗣 之

みのる産業(株)

研究本部

第二研究部 部長

(勤続年数 30.1 年)

【功績の概要】

入社以来、乗用型田植機の開発に従事し、数多くの製品化を行った。2011 年より技術提携を行った中国企業向け田植機の開発や、現地での生産指導により友好的な関係を築き上げた。

現在は田植機・水田除草機・播種関連機器開発部門の責任者を務めている。



有光工業(株) 大町浩司さん



開 沼 利 信

(株)山本製作所

施工技術部

専任リーダー

(勤続年数 38.1 年)

【功績の概要】

入社以来、プラント事業の設計に携わり、穀物乾燥プラント、精米プラント、環境プラントにおけるレイアウト設計の基礎を築き上げた。また、社内の設計者に対し、CAD の操作指導を長年継続しており、



みのる産業(株) 大倉嗣之さん

[管理・営業部門]



浮 須 克 弘

(株)IHI アグリテック

理事

営業部長

(勤続年数 29.1 年)

【功績の概要】

開発、生産、営業などの経験を生かし、主に海外担当として従事。特に上海 STAR への赴任時はコロナ禍の移動制限によって長期間に渡る業務となったが、上海にて辣腕を振るった。

帰国後は営業部に席を置き、酪農の厳しい市況の中で新しい施策を次々と全国に展開し、営業のトップとして社業の発展に貢献している。



岡 元 達 浩

キャニコム

経営企画事業部

DNB-A 本部 本部長

(勤続年数 16.1 年)

【功績の概要】

入社以来、広報・デザイン部門の責任者としてキャニコムのブランド構築に寄与してきた。

現在は、DNB-A 本部の本部長として広報・デザイン活動に加え、人事企画部門の責任者として人材確保・育成にも取り組み、キャニコムの事業活動を支えている。



谷 村 修 司

静岡製機(株)

農機営業部

中四国営業所 主幹

(勤続年数 29.10 年)

【功績の概要】

入社以来、農機営業部に所属し、営業一筋 29 年。岡山(現中四国営業所)、九州、関西で営業職として活躍。その後、中四国営業所にて所長に就き、関東

営業所所長を歴任。乾燥機・保冷库など主要製品の販売拡大に寄与した。

現在は、中四国営業所主幹として豊富な経験を生かし、部下指導にも手腕を発揮している。



根 方 幸

静岡製機(株)

農機営業部

施設設計課 主幹

(勤続年数 37.0 年)

【功績の概要】

入社以来、共同乾燥及び精米施設の設計施工部門に所属。機器手配および庶務の分野で長年にわたり貢献をしてきた。

機器手配業務において常に最適なコストパフォーマンスを追求し、会社の経費削減に大きく貢献。庶務業務においても、常に効率的かつ丁寧な対応を心掛け、社内の円滑な運営を支えてきた。細やかな気配りと迅速な対応は取引先からも評価されており、会社内、外で無くてはならない存在。



佐々木 昭 弘

(株)タイガーカワシマ

東北営業所

所長

(勤続年数 40.3 年)

【功績の概要】

東北営業所に入社後、秋田県を担当。東北各県の担当を経験して取引先との信頼関係を構築した。

その後 20 年間、東北営業所の所長として販売管理や若手社員の育成などに取り組み、長年にわたって東北地区の事業の拡大に貢献した。



山下 優幸

(株)太陽

E&A 事業部
環境営業課 課長
(勤続年数 30.8 年)

【功績の概要】

長年に亘って自社製品の廃食油燃料化システムの営業活動に尽力。業界の知見に明るいことから、有力企業との間に販売提携を結ぶに至り、以降の拡販に多大な貢献があった。また、機器納入先の CO2 削減にも大きく貢献した。



一岡 哲生

(株)タカキタ

営業本部本州営業部
物流管理課 専任課長
(勤続年数 32.1 年)

【功績の概要】

入社後、営業所での勤務を経て、2004 年から営業本部本州営業部営業課にて物流管理の業務に携わり、2018 年に専任課長へ就任し現在に至る。

本州営業部における物流管理の業務効率化、納期対応、コスト削減、品質の向上に大いに貢献した。



杉山 由紀江

ニューデルタ工業(株)

管理部資材課
資材課長
(勤続年数 38.0 年)

【功績の概要】

入社以来永年にわたり資材購買業務に従事し、この間常に生産する商品の要求品質を見極め、目標原価達成や品質確保または安定供給に努めて大きな成果を修めた。当社の発展と農業機械はもとより社会に役立つ商品の市場投入に大きく貢献した。特に資材購買業務の効率化においては、部品単品購入からコンプリート及びアッセンブリ納入へ切り替えるこ

とで発注業務の工数削減に大きく寄与した功績は特筆すべきものがある。また、取引先との信頼関係は厚く、その豊かな経験と誠実温厚な人柄をもって後進の指導育成にあたるとともに、上司、同僚、部下からの人望も厚く他の模範になっている。



中野 泰

ハスクバーナ・ゼノア(株)

営業本部東京支店
担当課長
(勤続年数 36.1 年)

【功績の概要】

入社以来 30 年以上にわたり国内営業本部に従事。営業担当として関東、中部・四国、関西を担当して販売店との信頼関係を築きトップセールスとして活躍した。

また自らの営業活動だけでなく、他の社員や部下に対しても社会貢献の重要性を説き、積極的に教育を行っている。営業チームとしての社会的責任を理解し、地域社会や環境問題への意識を高める取り組みは単に企業利益にとどまらず、広く社会全体に良い影響を与えるものである。



村尾 正

ハスクバーナ・ゼノア(株)

営業本部
東北支店 支店長
(勤続年数 34.4 年)

【功績の概要】

入社以来 30 年以上にわたり国内営業本部に従事。営業担当として関東、中国・四国地方、東海・北陸地域を担当して販売店との信頼関係を築きトップセールスとして活躍した。

2024 年からは東北支店長として、前向きな姿勢と責任感の強さからチーム全体に良い影響を与え、メンバーのモチベーション向上にも寄与している。



田中 孝治

本田技研工業(株)

二輪・PP 事業本部
PP 事業統括部営業部

営業一課 主事

(勤続年数 38.0 年)

【功績の概要】

勤務年数の殆どをパワープロダクツ事業に従事。営業担当者として製品の企画・開発に携わり製品拡販による事業貢献に寄与した。

業界団体の担当者として各種分科会や委員会に参画し、活動に尽力した。貢献度、経験の長さの両面で卓越した人物である。



渡辺 光

松山(株)

営業部副部長兼

業務課長

(勤続年数 28.1 年)

【功績の概要】

入社以来一貫して営業部門に従事。この間、市場開拓や営業基盤の確立を進めてきた。関東営業所所長、業務課長を歴任し、現在は営業部副部長兼業務課長として、取引先との交渉を含む売上実績の基盤確立に尽力している。何事にも真摯に向き合い、社内外の担当者との信頼関係も厚く、営業部全体の業績向上ならびに顧客の信用・信頼の向上に寄与してきた。



浴村 寿信

(株)丸山製作所

国内営業本部

九州支店 支店長

(勤続年数 32.1 年)

【功績の概要】

入社以来、一貫して営業部門に所属し、西日本エリアで販路拡大に従事。

現在は、九州地区における販売の促進、営業網の整備、販売計画の策定に従事。当社の業績向上に大きく貢献した。



小林 彰

やまびこジャパン(株)

農林東日本営業部

管理業務課 課長

(勤続年数 35.1 年)

【功績の概要】

入社後 34 年間、関東地区での営業とバックオフィスである管理業務体制の構築に力を注ぎ、営業とバックオフィス部隊との仕事の流れの円滑化につながり、販売業績の向上に貢献した。2008 年に管理課長に就任してからは、それまでに培った豊富な経験を活かし、持ち前のリーダーシップで社内人材育成にも寄与している。



ニューデルタ工業(株) 杉山由紀江さん



受賞者代表謝辞：静岡製機(株) 根方幸さん



(株)アテックス 八塚英樹さん



金子農機(株) 仲村弘行さん



キャニコム 岡元達浩さん



(株)ササキコーポレーション 吉岡聖訓さん



三陽機器(株) 岡本清志さん



静岡製機(株) 根方幸さん、谷村修司さん



(株)タイガーカワシマ 佐々木昭弘さん



(株)太陽 山下優幸さん、寺村正明さん、吉本和英さん



(株)タカキタ 一岡哲生さん、横山秀次さん



ハスクバーナ・ゼノア(株) 村尾正さん、中野泰さん



本田技研工業(株) 中谷友美さん、原野和行さん、
田中孝治さん



(株)IHI アグリテック 浮須克弘さん、
三陽機器(株) 岡本清志さん



松山(株) 黒田将仁さん、渡辺光さん



(株)丸山製作所 浴村寿信さん



やまびこジャパン(株) 小林彰さん



(株)山本製作所 開沼利信さん、後藤征紀さん

Q: 気圧が変動すると具合が悪くなりがち。予防法はある？

〈相談者／36歳 女性〉

若いころから、気圧が変化して雨天や台風が近づくと、頭痛や首・肩こり、全身がだるくなるなど、体調をくずして寝込むこともあります。天気が回復すればラクになりますが、予防法や対処法などありますか。

A: 気圧の変化を感じる内耳のセンサーが、過剰に反応して起こる「天気痛」と思われる。耳の温めやマッサージが予防や症状改善に。

ご相談者が感じている不調は、「天気痛」あるいは「気象病」と呼ばれるものである可能性があります。「天気痛」は病名ではなく、「天気（気圧や湿度、気温などの変化）の影響を受けて生じたり、悪化したりする慢性の痛みがある」という状態をいい、気圧の変化を感じるセンサーがある内耳が大きく関係しています。

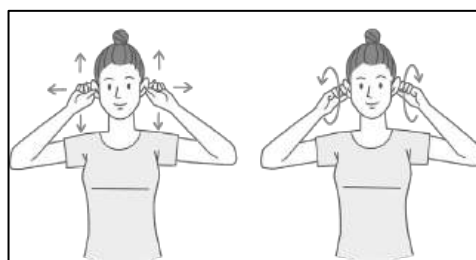
私が診ている患者さんでは、片頭痛、緊張型頭痛、首こり、肩こりといった、肩から上の痛みが全体の72%を占めます。女性が多いことも特徴ですが、その理由はまだはっきりしていません。考えられるのは、「内耳が男性より敏感で気圧の変化を感じやすい」「自律神経が乱れやすく、ホルモンの影響で体調に変化が起こりやすい」などですが、女性は男性に比べると筋肉量が少ない傾向にあるため、首こりや肩こりから緊張型頭痛をもっている人が多いことも原因の一つだと考えています。

天気痛の予防法・対処法としては、「くるくる耳マッサージ（図参照）」や「耳温熱（ホットタオルを

耳に当てて温める）」がおすすめです。マッサージや耳を温めることで内耳の血行がよくなり、気圧センサーの過剰反応を防いでくれます。

また、その季節特有の天気に備えることも必要です。ポイントは、その季節から少し先読みをして、体を徐々に次の季節のモードに切り替え、慣らしていくことです。たとえば、梅雨や台風シーズンは、気圧が毎日のように変動し、高い湿度や日中の寒暖差で自律神経がうまく対応できずにバランスがくずれやすくなり、天気痛のリスクが高まります。こうした時期に備えるには、まず気温差に体を慣らすことが重要です。39～41度程度のお湯に5～10分ほどつかったり、ウォーキングやヨガ、ストレッチなどの軽い運動で、少しずつ汗をかく習慣をつけていくことが近道です。発汗がスムーズになれば、体内の余分な水分を排出することができ、天気痛の大敵であるむくみ解消につながります。こうして、早く体を整え、季節に備えることが天気痛対策になります。

回答者：愛知医科大学 客員教授（疼痛医学講座）
佐藤 純 氏



図：耳をつまんでほぐす「くるくる耳マッサージ」

令和 6 年職場における熱中症による死傷災害の発生状況

令和 7 年 5 月 31 日 厚生労働省 労働基準局安全衛生部

1. 職場における熱中症による死傷者数の状況 (2015～2024 年)

職場での熱中症による死亡者及び休業 4 日以上の業務上疾病者の数（以下合わせて「死傷者数」という。）は、2024 年に 1,257 人と、死傷者数について統計を取り始めた 2005 年以降、最多となっている。うち死亡者数は 31 人と、死亡災害について統計を取り始めた 1989 年以降、当時、観測史上 1 位の猛暑であった平成 22 年の 47 人に次いで多くなっている。



2. 業種別発生状況 (2020～2024 年)

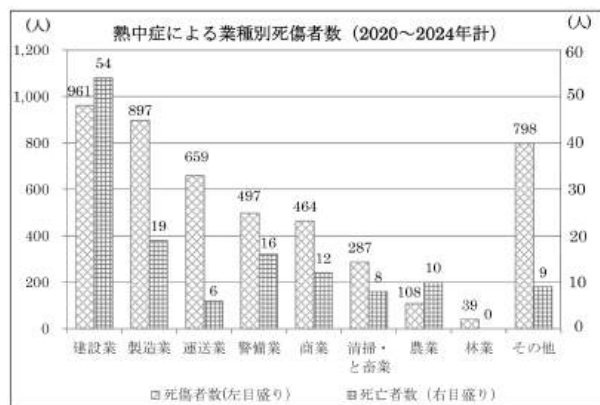
2024 年の死傷者数 1,257 人について、業種別でみると、製造業が 235 人、建設業が 228 人の順で多くなっている。死亡者数については、31 人のうち建設業が 10 人と最も多く発生しており、次いで、製造業が 5 人となっている。

また、2020 年以降の 5 年間に発生した熱中症の死傷者数について、業種別でみると、死傷者数、死亡者数ともに建設業、製造業の順で多く発生しており、年によって、製造業と建設業の順番は入れ替わることがあるが、いずれの年もこの 2 業種で死傷者数は約 4 割、死亡者数は約 5 割から 6 割程度を占めている。

熱中症による死傷者数の業種別の状況(2020～2024 年) (人)

業種	建設業	製造業	運送業	警備業	商業	清掃・と畜業	農業	林業	その他	計
2020 年	215 (7)	199 (6)	137 (0)	82 (1)	78 (2)	61 (4)	14 (1)	7 (0)	166 (1)	959 (22)
2021 年	130 (11)	87 (2)	61 (1)	68 (1)	63 (3)	31 (0)	14 (2)	7 (0)	100 (0)	561 (20)
2022 年	179 (14)	145 (2)	129 (1)	91 (6)	82 (2)	58 (2)	21 (2)	6 (0)	116 (1)	827 (30)
2023 年	209 (12)	231 (4)	146 (1)	114 (6)	125 (3)	61 (0)	27 (4)	9 (0)	184 (1)	1,106 (31)
2024 年	228 (10)	235 (5)	186 (3)	142 (2)	116 (2)	76 (2)	32 (1)	10 (0)	232 (6)	1,257 (31)
計	961 (54)	897 (19)	659 (6)	497 (16)	464 (12)	287 (8)	108 (10)	39 (0)	798 (9)	4,710 (134)

※ () 内の数値は死亡者数で内数である。



3. 月・時間帯別発生状況 (2020～2024 年)

(1) 月別発生状況

2024 年の死傷者数 1,257 人について、月別の発生状況でみると、約 8 割が 7 月、8 月の 2 ヶ月間に集中している。特に死亡者数については、31 人のうち、1 人を除き、7 月又は 8 月に集中している。

また、2020 年以降の 5 年間に発生した熱中症の死傷者数について、月別の発生状況でみると、死傷災害については 2024 年と同様の傾向があり、約 8 割が 7 月、8 月の 2 ヶ月間に集中している。死亡者数についても 2022 年は 6 月に 10 人の方が亡くなっているが、これを除けば、いずれの年も 7 月又は 8 月に集中している。

熱中症による死傷者数の月別の状況(2020～2024年) (人)								
	4月以前	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降	計
2020年	2 (0)	16 (1)	85 (0)	115 (4)	651 (16)	84 (1)	6 (0)	959 (22)
2021年	4 (0)	7 (1)	41 (0)	213 (7)	269 (12)	20 (0)	7 (0)	561 (20)
2022年	2 (0)	14 (0)	184 (10)	291 (9)	280 (10)	46 (1)	10 (0)	827 (30)
2023年	5 (0)	21 (0)	63 (1)	431 (18)	493 (10)	86 (2)	7 (0)	1,106 (31)
2024年	3 (0)	18 (0)	57 (0)	588 (17)	431 (13)	156 (0)	4 (1)	1,257 (31)
計	16 (0)	76 (2)	430 (11)	1,638 (55)	2,124 (61)	392 (4)	34 (1)	4,710 (134)

※ 4月以前は1月から4月まで、10月以降は10月から12月までを指す。

※ () 内の数値は死者数で内数である。

(2) 時間帯別発生状況

2024年の死傷者数1,257人について、時間帯別の発生状況についてみると、午前中や午後3時前後の被災者数が多くなっていることが窺えるが、いずれの時間帯でも発生している。

また、2020年以降の5年間に発生した熱中症の死傷者数について、時間帯別の発生状況についてみると、死傷災害、死亡災害ともに2024年と同様の傾向となっている。

なお、気温が下がった17時台や18時台以降に死亡に至るケースが少なからずみられるが、これらには、日中には重篤な症状はみられなかったにもかかわらず、作業終了後や帰宅後に体調が悪化した事案が含まれている。

熱中症による死傷者数の時間帯別の状況 (2020～2024年) (人)											
	9時台以前	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台以降	計
2020年	104 (2)	102 (3)	119 (0)	86 (3)	73 (4)	116 (3)	124 (2)	92 (4)	61 (0)	82 (1)	959 (22)
2021年	48 (0)	56 (1)	74 (3)	53 (4)	47 (3)	63 (3)	73 (0)	61 (3)	38 (3)	48 (0)	561 (20)
2022年	100 (1)	78 (3)	87 (1)	53 (3)	74 (2)	115 (3)	106 (6)	92 (2)	55 (5)	67 (4)	827 (30)
2023年	143 (4)	118 (2)	155 (6)	104 (1)	72 (0)	124 (5)	123 (2)	105 (1)	76 (8)	86 (2)	1,106 (31)
2024年	167 (3)	126 (2)	137 (2)	93 (2)	92 (1)	143 (3)	160 (7)	125 (5)	99 (3)	115 (3)	1,257 (31)
計	562 (10)	480 (11)	572 (12)	389 (13)	358 (10)	561 (17)	586 (17)	475 (15)	329 (19)	398 (10)	4,710 (134)

※ 9時台以前は0時台から9時台まで、18時台以降は18時台から23時台までを指す。

※ () 内の数値は死者数で内数である。



4. 年齢別発生状況 (2020～2024年)

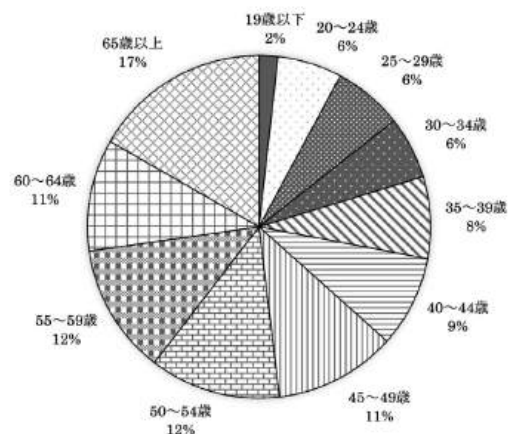
2024年の死傷者数1,257人について、年齢別の発生状況についてみると、死傷者数、死亡者数ともにいずれの年齢層においても発生しており、死傷者数については、50歳代以上で全体の約56%を占めており、死亡者数については、全体の約67%を占めている。

また、2020年以降の5年間に発生した熱中症の死傷者数について、年齢別の熱中症の発生状況についてみると、2024年度同様の傾向がみられ、死傷者数については、50歳代以上で全体の約52%を占めており、死亡者数については、全体の約61%を占めているなど、一般に高齢者は、身体機能の低下等の影響により、加齢により熱中症を発症するリスクが高いことから、死亡災害に至る割合が高くなっていることが考えられる。

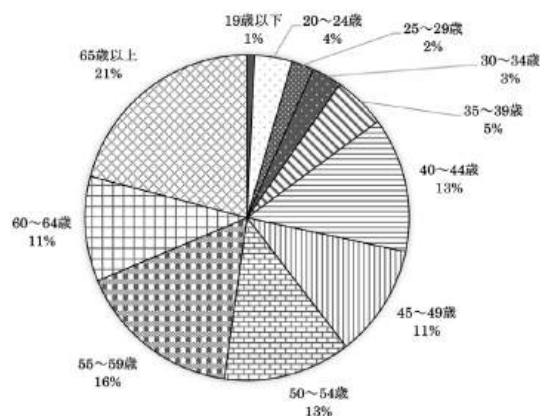
熱中症による死傷者数の年齢別の状況 (2020～2024年) (人)												
	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上	計
2020年	24 (0)	54 (0)	51 (0)	56 (1)	82 (2)	87 (5)	134 (2)	123 (4)	105 (2)	93 (3)	150 (3)	959 (22)
2021年	12 (1)	46 (0)	25 (0)	41 (0)	36 (2)	53 (2)	69 (3)	65 (3)	70 (4)	58 (1)	86 (4)	561 (20)
2022年	10 (0)	39 (2)	72 (1)	62 (3)	69 (1)	72 (1)	103 (5)	93 (3)	94 (4)	87 (3)	126 (7)	827 (30)
2023年	20 (0)	80 (2)	71 (0)	48 (0)	88 (1)	90 (6)	122 (1)	136 (4)	133 (4)	120 (4)	198 (7)	1,106 (31)
2024年	17 (0)	68 (1)	89 (0)	70 (0)	88 (1)	105 (4)	113 (4)	164 (3)	177 (8)	139 (3)	227 (7)	1,257 (31)
計	83 (1)	287 (5)	308 (3)	277 (4)	363 (7)	407 (18)	541 (15)	581 (17)	579 (22)	497 (14)	787 (28)	4,710 (134)

※ () 内の数値は死者数で内数である。

熱中症による年齢別死傷者数の割合 (2020～2024年計)



熱中症による年齢別死亡者数の割合（2020～2024年計）



5. 2024 年の熱中症による死亡災害の事例

【死亡災害全体の概要】

- ・総数は 31 件で、被災者は男性 28 名、女性 3 名であった。
- ・発症時・緊急時の措置の確認及び周知していたことを確認できなかった事例が 20 件あった。
- ・暑さ指数 (WBGT) の把握を確認できなかった事例が 24 件あった。
- ・熱中症予防のための労働衛生教育の実施を確認できなかった事例が 14 件あった。
- ・糖尿病、高血圧症など熱中症の発症に影響を及ぼすおそれのある疾病や所見を有している事が明らかな事例は 21 件あった。

職場での熱中症により近年は、
一年度で約30人が亡くなり、
約1,000人以上が4日以上
仕事を休んでいます。

厚生労働省 労働安全衛生局
環境省 環境政策局
農林水産省 労働安全対策課

準備期間 4月 にすべきこと

☐ 労働衛生管理体制の確立 事業場ごとに熱中症予防対策責任者を指定し、熱中症予防の責任体制を確立	☐ 暑さ指数 (WBGT) の把握の準備 計測設備に適合した暑さ指数計を準備し、点検
☐ 作業計画の策定 暑さ指数に合わせた作業計画の策定、作業停止に関する事項を含めた作業計画を策定	☐ 設備対策の検討 暑さ指数に合わせた設備対策の検討、暑さ指数に合わせた設備の設置を検討
☐ 休憩場所の確保の検討 作業場内と作業場外の両方、涼しい休憩場所の確保を検討	☐ 服装の検討 暑さ指数に合わせた服装の検討、暑さ指数に合わせた服装の着用を検討
☐ 教育研修の実施 労働安全衛生教育、熱中症予防教育の実施	☐ 緊急時の対応の事前確認 緊急時の対応 (通報、搬送) に関する事前確認

キャンペーン期間 5月～9月 にすべきこと

暑さ指数の把握と評価
計測設備に適合した暑さ指数計で暑さ指数を随時把握
把握した暑さ指数に基づいて以下の対策を徹底

測定した暑さ指数に応じて以下の対策を徹底

☐ 暑さ指数の把握 暑さ指数計に適合した暑さ指数計を準備	☐ 休憩場所の確保 暑さ指数に合わせた休憩場所の確保
☐ 服装 暑さ指数に合わせた服装の着用	☐ 作業時間の短縮 暑さ指数に合わせた作業時間の短縮
☐ プレーアップ 作業開始前や休憩中に身体を冷やして体温を下げる	☐ 水分・塩分の摂取 水分と塩分を適切に摂取 (水分は常時摂取)
☐ 暑熱慣化への対応 暑熱に慣れるため、7月以降は作業時間の短縮	☐ 健康診断結果に基づく対応 健康診断結果に基づいて、暑熱に慣れるための対策
☐ 日常の健康管理 労働安全衛生教育、熱中症予防教育の実施	☐ 作業中の労働者の健康状態の確認 暑さ指数に合わせた健康状態の確認
☐ 異常時の対応 暑さ指数に合わせた異常時の対応	☐ 暑さ指数の把握と評価 暑さ指数計に適合した暑さ指数計を準備

【厚生労働省】STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン（職場における熱中症予防対策）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116133.html>

（令和 7 年 キャンペーン実施要綱： <https://www.mhlw.go.jp/content/11303000/001478602.pdf>）

職場における熱中症予防情報： <https://neccyusho.mhlw.go.jp>

【環境省】熱中症予防情報サイト（WBGT 値）

<https://www.wbgt.env.go.jp>

【農林水産省】農作業安全対策＞熱中症対策

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/nechu.html

「令和7年6月1日に
改正労働安全衛生規則が
施行されます」

職場における 熱中症対策の強化について



熱中症による死亡災害の多発を踏まえた対策の強化について

職場における 熱中症による死亡災害の傾向

- ・死亡災害が2年連続で30人レベル。
- ・熱中症は死亡災害に至る割合が、他の災害の約5～6倍。
- ・死亡者の約7割は屋外作業であるため、気候変動の影響により更なる増加の懸念。

ほとんどが
「初期症状の放置・対応の遅れ」

早急に求められる対策

「職場における熱中症予防基本対策要綱」や「STOP! 熱中症クールワークキャンペーン実施要綱」で実施を求めている事項、現場で効果を上げている対策を参考に、

現場において
死亡に至らせない
(重篤化させない)ための
適切な対策の実施が必要。

基本的な考え方



現場における対応

熱中症のおそれがある労働者を早期に見つけ、その状況に応じ、迅速かつ適切に対処することにより、熱中症の重篤化を防止するため、以下の「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」が事業者に義務付けられます。

- 1** 「熱中症の自覚症状がある作業員」や「熱中症のおそれがある作業員を見つけた者」がその旨を報告するための体制整備及び関係作業員への周知。

※報告を受けるだけでなく、職場巡視やパディ制の採用、ウェアラブルデバイス等の活用や双方向での定期連絡などにより、熱中症の症状がある作業員を積極的に把握するように努めましょう。

- 2** 熱中症のおそれがある労働者を把握した場合に迅速かつ的確な判断が可能となるよう、
- ① 事業場における緊急連絡網、緊急搬送先の連絡先及び所在地等
 - ② 作業離脱、身体冷却、医療機関への搬送等熱中症による重篤化を防止するために必要な措置の実施手順(フロー図①②を参考例として)の作成及び関係作業員への周知

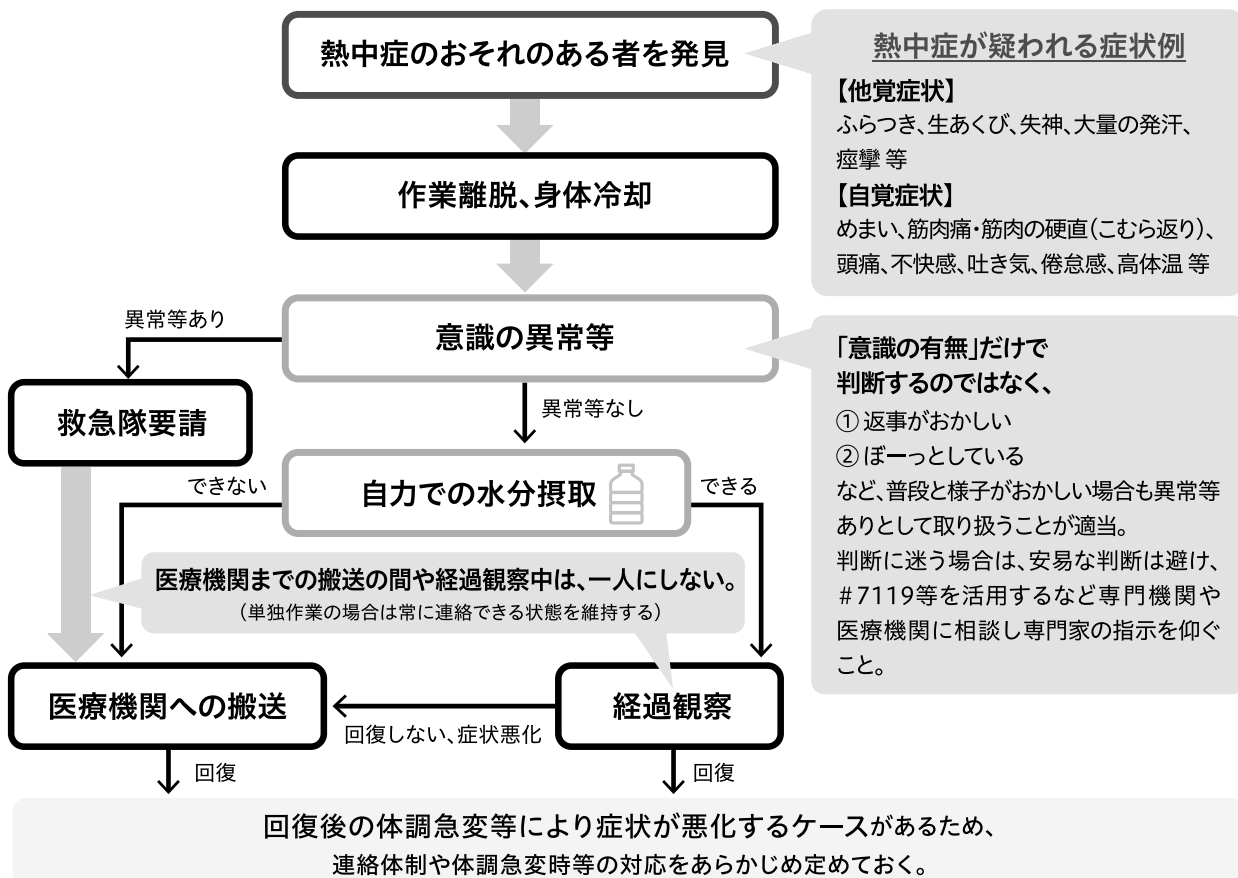
対象となるのは

「WBGT28度以上又は気温31度以上の環境下で
連続1時間以上又は1日4時間を超えて実施」が見込まれる作業

※作業強度や着衣の状況等によっては、上記の作業に該当しない場合であっても熱中症のリスクが高まるため、上記に準じた対応を推奨する。
※なお、同一の作業場において、労働者以外の熱中症のおそれのある作業に従事する者についても、上記対応を講じることとする。

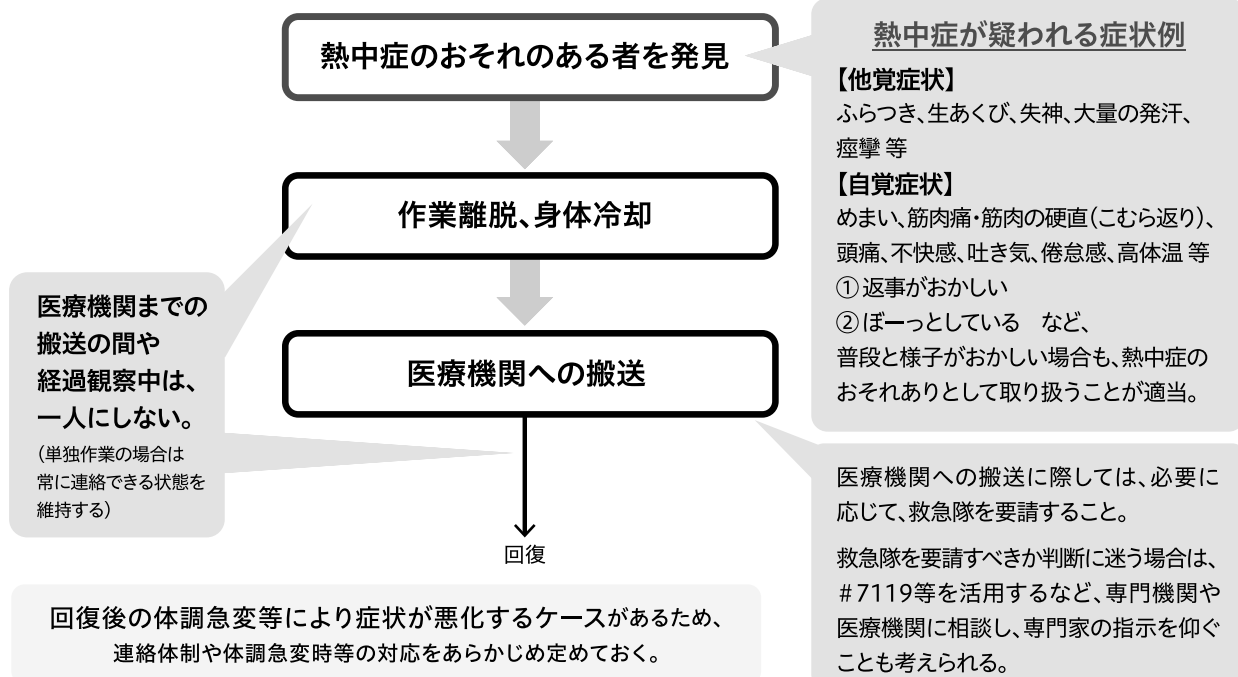
熱中症のおそれのある者に対する処置の例 フロー図 1

※これはあくまでも参考例であり、現場の実情にあった内容にしましょう。



熱中症のおそれのある者に対する処置の例 フロー図 2

※これはあくまでも参考例であり、現場の実情にあった内容にしましょう。



ISO TC23/SC19 Plenary 報告

1. はじめに

日本産業標準調査会（JISC）の承諾を受け、日農工が国内審議団体となっている、TC23（農業用トラクタ及び機械）では、現在 11 の Subcommittee（SC）（表 1）があり、日本は全ての SC で参加登録を行っています。そのうち、SC3（乗員の安全性及び快適性）、SC6（収穫物保護設備）、SC13（芝生及び庭園用動力機械）、SC17（携帯式林業機械）及び SC19（農業用電子設備）では、Participating member（P メンバー）として、積極的に国際標準化活動に参加しています。

今年の SC19 Plenary（全体会議）は、5 月にベルリンで開催されましたので、会議内容を報告します。

表 1 ISO TC23 で組織される SC

SC 2	一般試験
SC 3	乗員の安全性及び快適性（P メンバー）
SC 4	トラクタ
SC 6	収穫物保護設備（P メンバー）
SC 7	収穫及び保存設備
SC 13	芝生及び庭園用動力機械（P メンバー）
SC 14	操作制御、操作記号・表示及び操作マニュアル
SC 15	森林用設備
SC 17	携帯式林業機械（P メンバー）
SC 18	灌漑・排水装置とシステム
SC 19	農業用電子設備（P メンバー）

表 2 SC19 への参加国 * 新規加盟国

P メンバー 26 ヶ国
オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、中国、デンマーク、フランス、ドイツ（議長国）、インド、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、韓国、オランダ、ノルウェー、ルーマニア、ロシア、スペイン、スリランカ、スウェーデン、スイス、タイ*、イギリス、アメリカ

O メンバー（Observer） 9 ヶ国

チリ、チェコ、フィンランド、ハンガリー、アイスランド、イラン*、ポーランド、スロバキア、ウクライナ

表 3 ISO TC 23/SC19 で構成される WG

WG 1 *	アプリケーションとデータインターフェース
WG 3 *	動物識別用タグ
WG 5 *	通信インフラ
WG 8 *	安全とセキュリティ
WG 9	コンポーネントと電気システム
JWG10 *	電機及び電子構成部品及び装置の安全
WG 11	テスト
JWG16 *	セキュアな移動体高速通信

注：* 日本から専門家登録を行っている WG

JWG は TC127（土工機械）との合同作業グループ

2. ISO TC23/SC19 のスケジュール／出席者

- ・ 日程：5/20(火) WG3、WG8、JWG12
5/21(水) WG1、WG3、WG5、WG8
5/22(木) SC19 Plenary
- ・ 会場：ドイツ・ベルリン（DIN e.V.）
- ・ 出席者：（対面 20 名、オンライン 30 名）
日本（4 名：オンライン参加）
ドイツ（議長国）、ブラジル、カナダ、中国、インド、イスラエル、イタリア、韓国、オランダ、タイ、イギリス、アメリカ

3. SC19 Plenary 議事内容

5 月 22 日（木）に開催の SC19 Plenary では、各 WG のコンビナーや Liaison メンバーの代表から以下の活動報告がありました。（報告順に記載）

(1) AEF（Liaison）

異なるメーカーのトラクタとインplement 間で安全な通信を可能にする TIM（Tractor Implement Management）機能の拡張・改善を目指した Generation 2 の取り組み、農業関連企

業がデータを共有するためのピア・ツー・ピア型の AgIN（Agricultural Inter-operability Network）実現に向けたロードマップ、ISOBUS を介して M2M 通信を行う WIC（Wireless Infield Communication）の取り組みなど最新情報について報告がありました。

(2) VDMA

VDMA（ドイツ機械工業連盟）がタスクフォースを立ち上げて ISO の策定を目指している「Sensor system testing for object detection for people protection」の取り組み状況について報告がありました。

現在、このタスクフォースには、農機メーカー、大学、センサーメーカーなどが参加しており、5 つの専門グループにて、「環境とシステム」、「試験方法」、「機能安全」、「マネジメントー方法論レビュー」、「カメラシステムの評価」について検討が行われています。

(3) ISO TC 347 (Liaison)

TC 347 (Data-Driven Agrifood Systems) では、農業を起点とし、農産物・食品の消費に至るサプライチェーンであるアグリフードシステムで授受されるデータ及びそれらのデータに基づくシステムに関する標準化を目指しています。

TC 347 の議長より、現在の作業部会の構成を説明の後、TC 347 の作業を行うに当たり SC19 が開発している 4 つの規格（表 4）の重要性について報告がありました。

表 4 TC 347 が重要とする SC19 の規格

ISO 7673-1	Agricultural field operations data Part 1: Core concepts
ISO 7673-2	Part 2: Observations and measurements
ISO 7673-3	Part 3: Irrigation operations
ISO 11783-10	Tractors and machinery for agriculture and forestry — Serial control and communications data network — Part 10: Task controller and management information system data interchange

(4) WG 1

WG1 で改訂作業を行っている ISO 11783 (Tractors and machinery for agriculture and forestry) の開発状況について報告がありました。

—Part 6: Virtual terminal

⇒ 現在 CD 登録／2026 年 9 月成立予定

—Part 12: Diagnostics services

⇒ 現在 DIS 登録／2026 年 9 月成立予定

(5) JWG 16

JWG16 では、HSI (high-speed interconnect) を定義し、共通ネットワーク管理、サービス検出、セキュリティ、ネットワークレベル診断に関する規格作成を目的としていますが、現在、業界横断的なグループアプリケーション、自律コンポーネント通信開発などの重点分野について紹介がありました。

(6) CEMA (Liaison)

CEMA (European Agricultural Machinery Industry Association) に設置されている PT4 で ISO 18497 Agricultural machinery and tractors - Safety of partially automated, semi-autonomous and autonomous machinery の新しい Part として「Soil working machinery and tractors」の策定に向けて、年末までには新規格提案として SC19/WG8 に提出予定であることの報告がありました。

(7) WG 3

WG3 で改訂作業を行っている以下の規格について報告がありました。

・ISO 11785 Radio frequency identification of animals - Technical concept

⇒ DIS 投票開始／2026 年 3 月成立予定

・ISO 24631 Radio frequency identification of animals

—Part 3: Evaluation of performance of RFID transponders conforming with ISO 11784 and ISO 11785

⇒ FDIS 投票開始／2025 年 9 月成立予定

—Part 5: Procedure for testing the capability of RFID transceivers of reading ISO 11784 and ISO 11785 transponders

⇒ 今年中に改訂作業開始

(8) WG 5

WG5 で改訂作業を行っている ISO 11783 (Tractors and machinery for agriculture and forestry - Serial control and communications data network) について報告がありました。

—Part 2: Physical layer

- ⇒ FDIS 投票開始／2026 年 5 月成立予定
- －Part 3: Data link layer
- ⇒ DIS 投票開始／2025 年 11 月成立予定

(9) WG 8

WG8 では、自律機械の安全性に関する以下の規格改訂作業が終了し、2024 年 7 月に ISO として成立したことの報告がありました。

- ・ ISO 18497 Agricultural machinery and tractors - Safety of partially automated, semi-autonomous and autonomous machinery -
 - －Part 1: Machine design principles and vocabulary
 - －Part 2: Design principles for obstacle protection systems
 - －Part 3: Autonomous operating zones
 - －Part 4: Verification methods and validation principles

また、ISO 25119 (Tractors and machinery for agriculture and forestry – Safety - related parts of control systems -) の Part1～4 については、WG8 内に設置しているタスクフォースで改訂版の作成に取り組んでいることの報告がありました。

(10) WG 9

WG9 では、電気的高出力インターフェースに関する規格 ISO 23316 (Tractors and machinery for agriculture and forestry - Electrical high-power interface 700 V DC / 480 V AC -) の Part1～7 については 2023 年に ISO として成立済みであり、2028 年に定期見直しが予定されていることの報告がありました。

(11) JWG 10

JWG10 では、電気及び電子部品とシステムの安全性に関する規格 ISO 23285 (Agricultural machinery, tractors, and earth-moving machinery - Safety of electrical and electronic components and systems operating at 32 V to 75 V DC and 21 V to 50 V AC) の作成作業が終了し、2025 年 2 月に ISO として成立したことの報告がありました。

【メモ】

ISO 規格制定が行われるプロセスは、下記の段階を踏んで作成され、通常は 36 ヶ月以内に国際規格の最終案がまとめられる。

なお、成立した ISO 規格は、社会や技術の変化に対応するために定期的（原則 5 年毎）に見直しが行われる。

[ISO 規格制定が行われるプロセス]

NWIP : New work item proposal (新規規格提案)

↓ P メンバー過半数が賛成で承認

WD : Working draft (作業原案)

↓ NWIP 提案承認後 6 ヶ月以内に WD を提出

CD : Committee Draft (委員会原案)

↓ P メンバー 2/3 以上の賛成

DIS : Draft international Standard (国際規格原案)

↓ P メンバー 2/3 以上が賛成、反対が投票総数の 1/4 以下

FDIS : Final committee draft (最終国際規格原案)

↓ P メンバー 2/3 以上が賛成、反対が投票総数の 1/4 以下

IS : International Standard (国際規格) として成立

(12) WG 11

これまで、電磁両立性の機能安全に関する規格 ISO 14982 (Agricultural and forestry machinery) は、TC23/SC2/WG10 で開発作業が行われてきました。現在、FDIS 承認の段階に入っていますが、ウィーン協定に基づき欧州標準化委員会 (CEN) からのコメント対応を行っています。

なお、ISO として成立 (時期未定) された後は、このプロジェクトは WG11 に移管されることの報告がありました。

(13) JWG 12

JWG12 では、サイバーセキュリティに関する規格 ISO 24882 (Agricultural machinery, tractors, and earth-moving machinery - Cybersecurity Engineering) の開発作業を行っています。機械規則および EU サイバーレジリエンス法 (CRA) との整合化を図るため、CEN/TC 144 (Tractors and machinery for agriculture and forestry) と連携してプロジェクトが進められています。

現在、CD 段階で各国からのコメント対応を行っています。CRA が 2027 年 12 月に適用されることから、2026 年 2 月成立を目標に作業が進められています。

(文責 : 松山 徹)

農作業安全 ポスター

デザイン募集！

過去の農林水産大臣賞受賞作品



令和6年



令和5年



令和4年



令和3年



令和2年



令和元年



平成30年



平成29年

募集期間：8月29日まで

受賞作品は、全国の農村部で掲示される「農作業安全ポスター」として使わせていただきます

応募資格者：どなたでも 最優秀賞：農林水産大臣賞

応募方法の詳細：以下のホームページをご覧ください

日本農業機械化協会

検索 ↓

または右のQRコードから



農林水産省補助事業 農作業安全総合対策推進

実施機関 一般社団法人日本農業機械化協会 株式会社日本農業新聞

中小企業等経営強化法に関する証明書発行ガイドライン

改訂日 令和 7 年 4 月 2 日
(一社) 日本農業機械工業会

【改訂内容】

中小企業経営強化税制は令和 7 年 4 月 1 日から 2 年間延長されました。

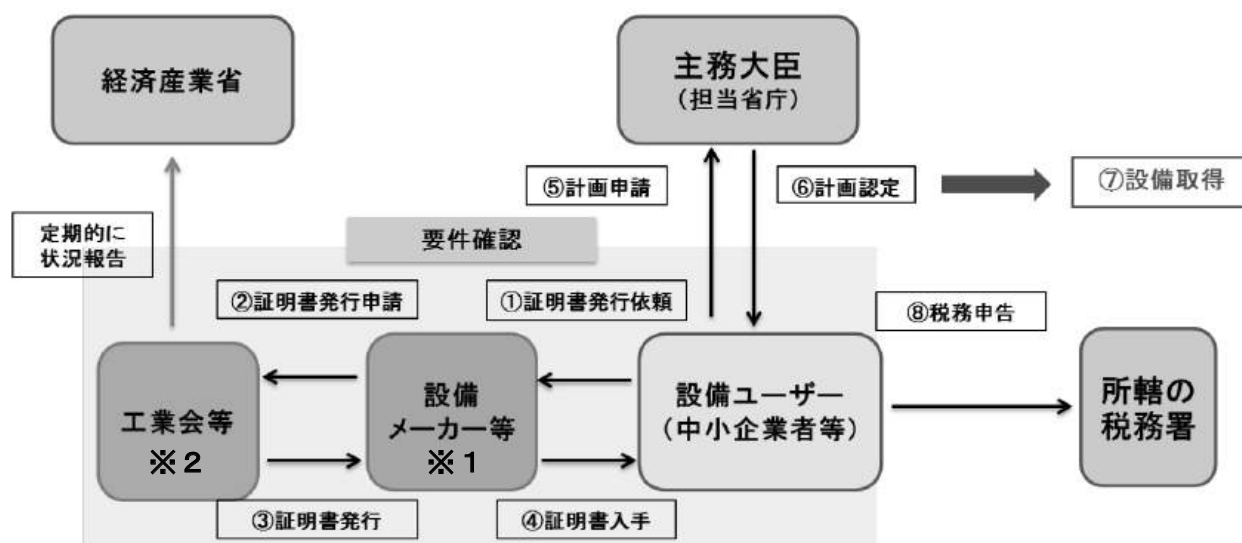
申請様式(様式 1, 様式 2)が変更されるとともに、生産性の考え方は、単位時間あたり生産量、歩留まり率、投入コスト削減率のいずれかにより評価されます。

また、証明書の発行手数料を改定します。詳細は以下の本文をご確認ください。

1. 中小企業等経営強化法に関する証明書

中小企業等経営強化法において、機械・装置等が必要な要件を満たしていることを証明するものです。

中小企業等（農業法人、個人農家を含む）が主務大臣の計画認定を受ける際にこの証明書が必要になります。中小企業等は、税務申告の際、計画認定書等を添えて行うことにより、税制優遇等（即時償却又は税額控除 10%）を受けられます。



※1 当該設備の性能把握や同一メーカー内の新旧モデルの判別が必要であるため、設備メーカーによる申請が望ましいが、代理店や子会社等で正確な申請が可能な場合は、設備メーカーに代わって申請することを可とする。

※2 設備メーカー自身がその工業会の会員であるか非会員であるかに依らず、設備毎に証明団体として指定されている工業会等へ申請すること。（具体的にどの設備についてどの工業会等に申請すべきかは、経済産業省HP参照。）

1. 設備ユーザーは、当該設備を生産した設備メーカー等に証明書の発行を依頼。
2. 設備メーカー等は、証明書(様式 1)及びチェックシート(様式 2)を記入の上、工業会等に確認依頼。
手続きに際しては、必要に応じて裏付けとなる資料等を添付。
3. 設備メーカー等は、工業会等から発行された証明書を依頼があった設備ユーザーに転送。
4. 設備ユーザーは工業会等が発行した証明書(写し)を添付して、経営力向上計画の申請書を主務大臣に提出。
5. 設備ユーザーが機械設備等を取得。
6. 認定を受けた経営力向上計画に基づき取得した経営力向上設備等については、税法上の他の要件を満たす場合には、税務申告に際し、納税書類に計画申請書(写し)、計画認定書(写し)、工業会証明書(写し)を添付。

詳しくは、経済産業省中小企業庁 HP をご覧ください。<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/kyoka>

2. 申請方法

次の書類を揃えて、当会あてに郵送または、メールにて申請ください。

※メール申請の場合は、以下の【メール申請方法について】をご参照の上、申請してください。

※当会窓口へ直接持参されても受け付けいたしかねます。必ず郵送またはメールでお願いします。

(1) 証明書（様式1） ※申請書を兼ねています。

(2) チェックリスト（様式2）

(3) 非会員の場合は、会社概要（パンフレット等）

様式1、2は、当会 HP からダウンロードできます。

URL : <http://www.jfmma.or.jp/certificate.html>

事前に、本制度の要件を満たしていることを十分に確認した上で、申請してください。

(要件)

①販売開始から一定期間以内であること（最新モデルでなくてもよい）

機械・装置：10年、工具：5年、器具・備品：6年、

建物附属設備：14年、ソフトウェア：5年

②当該モデルが一世代前のモデルと比較して、年平均1%以上の生産性向上を達成していること。

なお、比較するのは自社の一世代前のモデルであり、他社製品と比較する必要はありません。

③取得価額が一定金額以上であること

機械・装置：160万円、測定工具及び検査工具：30万円

器具・備品：30万円、建物附属設備：60万円

ソフトウェア：70万

【メール申請方法について】

① 申請書類は、全て PDF 形式にして、ファイルをメール送信ください。

② 証明書発行手数料（正会員以外の方）の請求書（PDF 形式）は、証明書と一緒に、メールにてお送りします。

③ 申請用メールアドレス、件名は以下のとおりです。

[申請用メールアドレス] certificate@jfmma.or.jp

[件名] 会社名／証明書申請（●件）

3. 郵送先

〒105-0011

東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館

一般社団法人日本農業機械工業会（証明書申請）

電話：03-3433-0415

FAX：03-3433-1528

4. 証明書発行手数料（消費税込み）

正会員：1,000円/枚（令和7年7月1日より手数料改定）

その他※：5,000円/枚

※証明書を申請者へ郵送又はメール送信する際、請求書もお送りします。

5. 証明書の発行

証明書が出来しだい、申請者あてに郵送又はメール送信します。

申請資料を当会に郵送する際、必ず切手を貼った返信用封筒を同封してください。

6. 証明書の再発行

発行済みの証明書を紛失、又は内容訂正が必要になった場合には、証明書の再発行をいたします。

(1)再申請の方法

新たに申請書（様式1）のみを郵送してください。チェックリストやエビデンス資料は不要です。

ただし、発行済み証明書の「整理番号」を記載したメモ紙を同封又はメール送信してください。

(2)証明書の受け取り方法

新規申請の場合と同じです。郵送の場合は、返信用封筒を同封してください。

(3)再発行手数料

日農工の正会員以外については、1枚につき5,000円（消費税込み）とします。

徴収方法は、新規申請の場合と同じです。

7. 書類作成上の注意

(1) 必要書類（様式1、様式2）に所定事項を正確に記入してください。

当会が記入する部分（整理番号及び破線枠内）は記入しないでください。

(2) 必要に応じて、本制度の要件を満たしていることを示す根拠資料を要求する場合があります。

8. 「生産性」について

生産性の指標は、以下3つの例示を参考にして、申請者が最適と判断するものを用いてください。

【単位時間あたり生産量】（時間当たり掘削量（ m^3/h ）、時間当たり生成量（個/h）等）

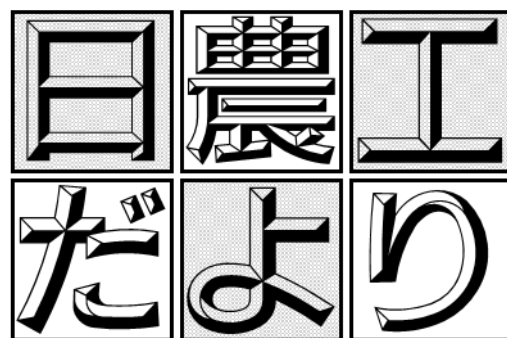
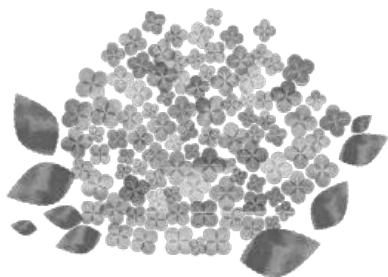
【歩留まり率】（完成品数/投入原料数、良品数/完成品数 等）

【投入コスト削減率】（必要作業時間の短縮率、必要投入原料の削減率 等）

※ 投入コストは当該設備の製作に係る費用（金銭）という意味ではなく、それ以外の時間や原料の量など、当該設備を利用して物等を生成するために必要となる要素を意味しています。

9. 対象期間

平成29年4月1日から令和9年3月31日までの期間



第62回定時総会の開催

令和7年6月5日(木)東京都港区白金台・シェラトン都ホテル東京にて、第62回定時総会を開催いたしました。

令和6年度貸借対照表及び正味財産増減計算書について審議し、承認されました。



第62回定時総会

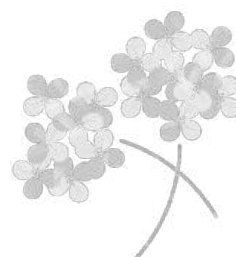
総会終了後、第64回従業員功労表彰式を執り行い、会員企業から推薦を受けた29名(出席28名)の受賞者に、増田会長より表彰状が授与されました。(1～9ページ参照)



第64回従業員功労表彰式



受賞者の皆さん





懇親会の様子

◇ 事務局からのお知らせ

4月1日付で日農工職員以下2名がそれぞれ永年勤続30年、40年を迎えました。

長年のご功労に敬意を表すと共に、今後も変わらぬご活躍を期待しております。



【勤続30年】業務部次長 松本礼史



【勤続40年】事務局長 松山 徹

◆ フォトギャラリー投稿写真を随時募集しています！

ひまわりでは「フォトギャラリー」に掲載する投稿写真を募集しています。

デジタルカメラやスマートフォン等で撮影した写真データと一緒に、①タイトル ②コメント ③名前（ご希望の方はPN）④ご連絡先 を明記の上、広報委員会までメールにてご応募ください。

- ・ 季節を問わずジャンルは自由です。ただし、肖像権や著作権には十分ご注意ください。
- ・ 写真には必ずタイトルとコメントを添えてください。
- ・ 採用された方にはお礼の品を送らせていただきます。

【応募先】(一社)日本農業機械工業会 広報委員会
E-mail:sunflower@jfmma.or.jp

→詳しくは日農工のホームページをご覧ください。
<http://www.jfmma.or.jp/himawari.html>

今後の主なスケジュール

- ◇ 令和7年11月19日（水）
地方大会（広島市）
ANA クラウンプラザホテル広島
- ◇ 令和8年1月8日（木）11：30～
新年賀詞交歓会
日本工業倶楽部（千代田区丸の内）
- ◇ 令和8年3月11日（水）
幹部会・理事会
機械振興会館（港区芝公園）



🌻 編集後記 🌻

「白黒のパンダ」

▽ 5月のある休日に、上野動物園のパンダを見に行きました。

きっかけは、和歌山県白浜町のアドベンチャーワールドにいる4頭のパンダが、6月に中国に返還されることになったこと。上野動物園の2頭のパンダも来年2月に契約満了し、来年には日本からパンダがいなくなるかもしれないので、混雑前に行こうということで実行したのでした。

上野動物園には開園前に到着し、真っ先にパンダ館に行きましたが、既に40分待ち。

見学の行列にはパンダ推しがたくさんいて、例えば、パンダ柄の服に帽子、バッジを付けて、ぬいぐるみも持っています。また、全身真っ黒の衣装に頭も黒頭巾で覆った異様な集団がちらほら。ガラス越しにパンダを撮影するときに映り込まないようにするためだとか。パンダ人気を改めて実感します。

写真は、筆者が撮影した当日の会心のショット。ほとんど動きませんが、ちょっと姿勢を変えると「わーっ」と歓声があがります。



▽ そもそも、パンダは中国四川省とその周辺地域の山奥だけに生息し、食肉としても毛皮としても価値が低く、地元民は関心を抱いてこなかったようです。しかし、19世紀後半にヨーロッパ、20世紀初頭にアメリカへ持ち込まれたことをきっかけに、その愛くるしい外見としぐさで大ブームとなり、その後世界的にも人気を博すようになりました。日本にも現在合計6頭ほど動物園にいて人気を博し、地域経済にも貢献しています。

▽ そういえば、10年以上前に、家族で北京の動物園に行ったのですが、7-8頭いたパンダの毛色は白黒というより汚れた茶色と黒。本場中国にはパンダがたくさんいるからか、地元では関心が低いのか、あまり大事にされていないのではと勘ぐったのでした。汚れたパンダに家族はがっかり。一方で、日本にいるパンダはきっと大事にされていて、白黒に違いないとのリベンジの思いもあり、上野で40分以上並んで、ついにパンダは白黒であることを確認できたのでした。